

各家庭で こんなことに取り組んでみませんか？

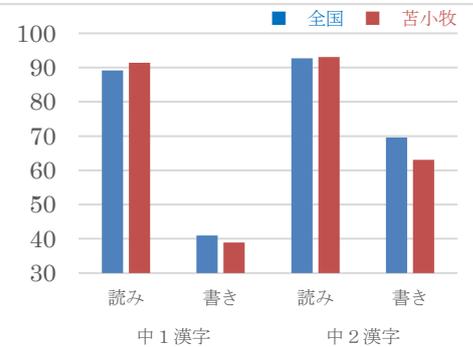
## 中学生国語 家庭学習アイデア例



### 【漢字の読み取り・書き取りに関する問題】

このような問題が出題され、課題がみられました。

- ・ 中学1年生 「畑をタガヤす。
- ・ 中学2年生 「激しい試合を見てコウフンする。」  
「大会を成功にミチビク。」



【漢字の読み取り・書き取り問題の平均正答率の比較】

～漢字を文や文章の中で使い慣れることを目指しましょう！～

### なぜ「漢字を学ぶこと」が大切なのか？

#### ○漢字を使うと速く正確に情報を伝達できる！

A「このもんだいようしはひらかずに、したのちょうさのうけかたをよんでおきなさい。」

B「この問題用紙は開かずに、下の調査の受け方を読んでおきなさい。」

AとB、どちらが読みやすかったですか。漢字は一度習得してしまうと、内容の伝達が非常に速いというメリットがあります。たくさん漢字を覚えると、より正確に速く情報の伝達が可能になります。

#### ○他教科等の学習の理解が深まり、さらに読書活動が充実する！

国語以外の教科においても、たくさん漢字が出てきます。漢字を使い慣れることで、他の教科の理解が深まります。読書においても、いろいろな本をスムーズに読むことができますし、内容を正確につかむことができます。

### こんなことやってみよう！

#### ○「熟語を集め」→「漢字・熟語を使った例文づくり」をやってみよう！

1つの漢字を何度も書くことも大切ですが、その漢字を用いた熟語をたくさん集め、関連付けて覚えるという方法もあります。例えば、「耕」という漢字を勉強する際、「耕作」「耕地」「耕す」「農耕」など、その漢字を含む熟語を合わせて勉強すると、漢字が持つ意味がイメージしやすくなり、使い方もあわせて覚えやすくなります。熟語が思い浮かばない場合は、インターネット等で調べてみましょう。熟語の意味が分からない場合は、その意味を調べてみましょう。

熟語の意味がわかったら、その熟語を使う例文を書いてみましょう。

(例)「農耕民族なので、野菜が好きだ！」

文章を書く練習にもなりますし、漢字を文章の中で使い慣れることにつながります。

ただ、すべての漢字について、このような学習をすることは難しいと思いますので、テストで間違えた漢字や覚えにくい漢字などに絞って学習していきましょう。



**各家庭で** こんなことに取り組んでみませんか？

## 中学生国語 家庭学習アイデア例

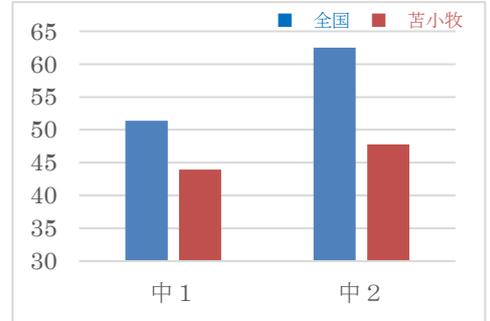


### 【自分の考えを書くことに関する問題】

このような問題が出題され、課題がみられました。

・中学2年生

2つの「魚を食べることを呼びかけるポスター」を比べ、どちらのポスターを掲示するとよいか。2段落に分け、8行以上、10行以内で、自分の考えとその理由を書きなさい。



【自分の考えを書くことに関する

問題の平均正答率の比較】

～目的や意図に応じ、社会生活にかかわることについて、自分の考えをわかりやすく書くことを目指しましょう！～

### なぜ「書くこと」が大切なのか？

#### ○「書くこと」で、論理的思考力が育成される！

論理的思考力（物事や情報を的確に分類し、筋道を立てて自分の考えを明確化する力）の育成は「書く」ことが中心になると言われています。「書く」ことは、複雑な事象の中身や、物事に対する多様な考えなどが整理され、自分の考えを広げることにつながります。

#### ○自分の考えを正確に伝えられるようになる！

「書く力」が高まることによって、いろいろな場面で、自分の考えを正確に伝えられるようになります。

中学生が大人になってからも、レポート、企画書スピーチ原稿の作成など、自分の考えを書くことによって伝える場面が多くあります。授業でも「書くこと」に関する学習は行いますが、家庭でも、自分の考えを正確に伝える学習を行っていきましょう。

### こんなことやってみよう！

#### ○普段から「自分の考えをもつ」、「自分の考えを書く」機会を作ろう！

「自分の考えをもつ」には、きっかけが必要です。

小説や物語、新聞などを読んだり、映画や動画などを観たりしたことや学校で見聞きした話題やニュース等で見た内容について、「自分はどうか考えたか」を書いてみましょう。そして、考えたことについて、保護者に伝え合ってみましょう。伝え合うことで、新たな視点が見つかったり、自分の考えが整理されたりします。さらに「自分の考えがどう変わったか」を書いてみることで、論理的思考力が高まります。

#### ○書いた文章について、見直してみよう！

自分の考えを書いたとき、「この言葉は何か違う」「もっと自分を表せる言い方はないかな」という視点で見直してみよう。すぐにわかりやすく書くことはできず、もどかしさもたくさん経験するかもしれませんが、そういった経験を通してこそ、書く力が高まっていきます。

**各家庭で** こんなことに取り組んでみませんか？

## 中学生国語 家庭学習アイデア例

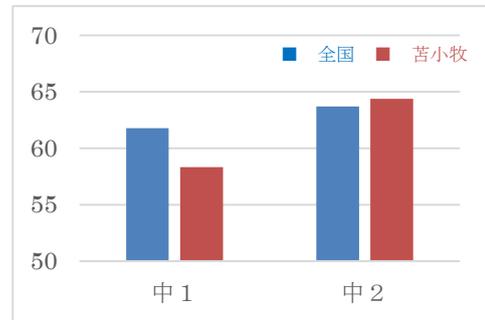


### 【物語や説明文の内容を読み取るに関する問題】

このような問題が出題され、課題がみられました。

- 中学1年生 28字×40行程度の文章
- 中学2年生 28字×50行程度の文章

説明文と物語文を読み、登場人物の気持ちを答える。また、書かれていることを要約している文章を選ぶ。



【物語や説明文の内容を読み取るに関する問題の平均正答率の比較】

～文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読むことを目指しましょう！～

### なぜ「読むこと」が大切なのか？

#### ○「読むこと」で情報収集能力が高まる！

「読む力」が高まることによって、いろいろな場面で、素早く要点を把握できるようになり、相手が伝えたいことを的確に理解できます。

また、情報量が多い中で、スピーディに必要な情報を読み取り、客観的にそこから何が言えるのかや問題を解決するには何が必要なかを解釈し、自分はどうするべきかを考えることができます。

#### ○「読むこと」で、情緒力が育成される！

情緒力（例えば、他人の痛みを自分の痛みとして感じる心、美的感性、もののあわれ、懐かしさ、家族愛、郷土愛、日本の文化・伝統・自然を愛する祖国愛、名誉や恥といった社会的・文化的な価値にかかわる感性・情緒を自らのものとして受け止め、理解できる力のこと）の育成は、「読むこと」が中心になると言われています。中学生の段階で、いろいろなジャンルの本を読み、感性を豊かに育みましょう。

### こんなことをやってみよう！

#### ○文章を読んで要約しよう！

要約の練習をすることで、文章の骨格をとらえる力が身に付きます。日常生活で興味のある内容の記事（雑誌や新聞など）を見つけたら、200字や400字など、問題でよく指定される文字数に要約してみましょう。身近な内容や好きな話題だと意欲的に取り組みやすくなります。200字が困難な場合は、字数を決めないで要約してみましょう。

#### ○読書の習慣を身に付けよう！

小学校国語家庭学習アイデア例でも紹介していますが、「読む力」を高めるためには読書が有効です。お子様の読書習慣がないという場合は、本が身近に感じる環境づくりやわからないことは本などで調べること、読みたい本がないか聞いてみるなど、本に関心をもちたい工夫を行ってみたいかがでしょうか。

**各家庭で** こんなことに取り組んでみませんか？

## 中学生数学 家庭学習アイデア例

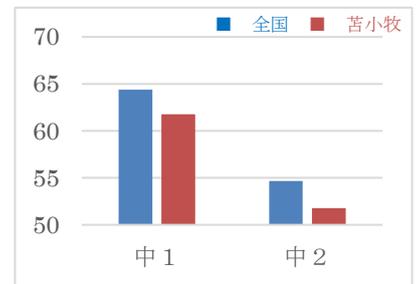


### 【数学の問題】

このような問題が出題され、課題がみられました。

・中学2年生

妹と兄は、同じ中学校に通っています。ある朝、妹は兄より3分先に家を出発しますが、学校に着く前に兄に追いつかれました。妹は分速60m、兄は分速80mで同じ道を歩いたとすると、妹が家を出発してから兄に追いつかれるまでの時間は何分ですか。（省略）



【数学の問題における平均正答率の比較】

～日々の授業の内容を確実に習得しましょう！～

### なぜ、「数学」を学ぶことが大切なのか？

#### ○課題を解決する能力が身に付く！

「数学」を学ぶことによって身に付く力はたくさんありますが、その中でも重要なのが「課題を解決する能力」です。

難しい課題でも、情報を整理・分析し、解決に向けて、自分の使える方法を探し出し、課題に照らし合わせて解決に導く。また、考えた方法で試しても、解決につながらない場合は、修正し試行錯誤しながら課題を解決していく。こういった力は、数学を学ぶことを通して身に付けることができます。

### こんなことやってみよう！

#### ○まずは教科書の問題を自分の力でできるようになろう！

上記の問題は、教科書にも同じような問題が記載されています。まずは、教科書の問題をしっかりと自分の力でできるようになることを目指しましょう。

そのためには、数学の授業で、わからなかった内容をそのままにしておくと、次の内容もわからない…気が付けば何から手をつけていいかわからない状態になり、学習意欲の低下につながります。

わからない内容が増えないように、その日の授業で取り組んだ内容を、できるだけ早く振り返りましょう。自分の力では理解できない場合は、先生、友達や保護者に聞いてみることや教科書、ノートを見直すこと、動画教材などを活用することによって、理解を深めましょう。

#### ○小テスト、単元テスト、定期テストなどで間違えた問題は学び直しましょう！

テストは、今の自分の力を知る材料の一つです。分かっていない問題については、確実に学び直すことが大切です。間違いの原因を分析し、計算ミスなら同じミスを繰り返さないように、メモで記しておくこともよい学習方法の一つです。また、解き方がわからない場合は、上記のような方法で、解決していきましょう。

正解率が4割程度の場合、満点にすることは大変苦勞することと思います。すべての問題ではなくても、4割が6割になることを目指して、理解しやすい問題から学び直すことも大切です。

**各家庭で** こんなことに取り組んでみませんか？

# 中学生数学 家庭学習アイデア例



## 【負の数や文字式に関する問題】

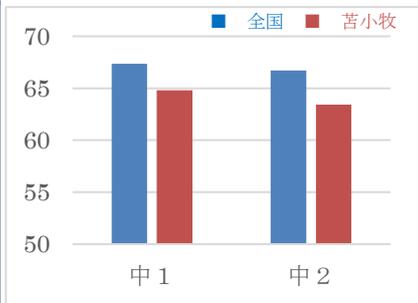
このような問題が出題され、課題がみられました。

・中学1年生

面積が  $72 \text{ cm}^2$  の平行四辺形で、底辺が  $x \text{ cm}$  のとき、高さは  $y \text{ cm}$  です。  $x$  と  $y$  の関係を表した式を書きなさい。

・中学2年生

$-6 - (-2)$  の計算をしなさい。



【正負の数や文字式に関する問題の平均正答率の比較】

～計算の基礎である「正負の数、文字と式」を確実に習得しましょう！～

## なぜ、「正負の数」「文字と式」の単元は大切なのか？

○負の数の範囲に広げたり、負の数を使って表したりすることは全領域で必要！

中学校で学ぶ数学は、A数と式、B図形、C関数、Dデータの活用と4つの領域を学習します。どの領域でも少なからず負の数を使って考えることがあります。1年生の最初で学習する負の数の混じった計算等について、しっかりと理解する必要があります。

○文字を使って表すことは、全領域で必要！

文字を使うことによって、数量やその関係を簡潔・明瞭に、しかも一般的に表現することができます。そういった利便性から、数学の学習全般に関わる基礎的に知識及び技能として重要です。「負の数」同様、文字を使って表すことは、どの領域でも少なからず必要です。

## こんなことやってみよう！

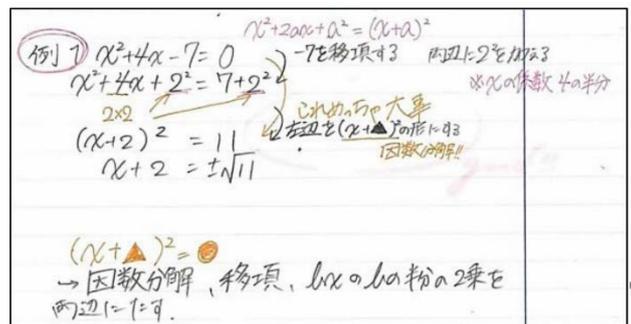
○考え方がわかるよう途中計算をかこう！

上記の例では、 $- (6 - 2)$  となり、答えを求める際の2数の計算は  $6 - 2$  ができればよいです。

$6 - 2$  はできるけど、 $-6 - (-2)$  となると正解率は落ちます。

中学校の計算では、どのように計算するのかを理解することが大切です。とくに、負の数の計算や文字含む式の計算はどの学年にも活用されます。

計算練習をする際には、右の図のように、途中計算を書きましょう。また、どのような考え方が大切かを言葉で表すこともよい学習方法の一つです。



○考え方がわかったら繰り返し計算練習にチャレンジしよう！

考え方が理解できたら、教科書等の問題を活用して、計算問題を解きましょう。一週間程度時間を空けて、再び同じ問題に取り組むことも知識・技能の定着には効果的です。